

SPI Japan 2025「つなぐ」

SPI Japan の活用方法

住友電工情報システム(株)

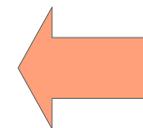
QCD改善推進部

中村 伸裕

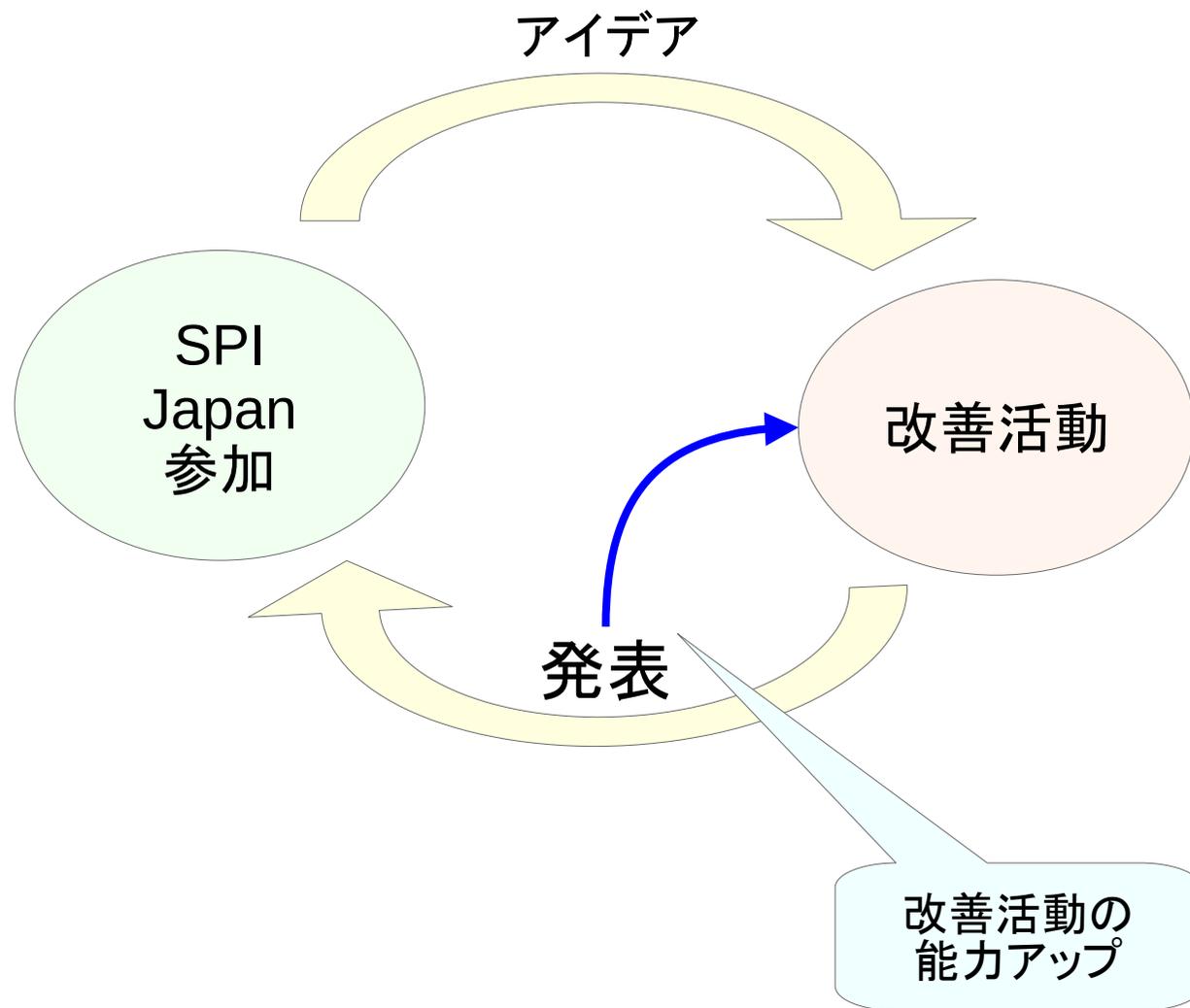
2025/10/22

住友電工情報システム株式会社

- 資本金 : 4.8億円
- 従業員数 : 630名
- 本社 : 新大阪
- 株主 : 住友電気工業株式会社 60%
住友電装株式会社 40%
- 事業内容
 - 住友電工グループ向け 業務システムの開発
 - 住友電装向け 業務システムの開発
 - パッケージソフト 開発・販売



本発表の概要 ～ 社外と社内の知見をつなぐ



Agenda

1. プロセス改善人材の能力アップ

2. SJで得た知識の活用 1

“いいソフトウェアを創るための組織と経営” 倉貫 義人氏

3. SJで得た知識の活用 2

“組織に自動テストを書く文化を根付かせる戦略（2024版）”

和田 卓人氏

3. まとめ

1. プロセス改善人材の能力アップ

SPI Japan 発表実績

- 改善推進部門
 - 毎年発表
- 開発部門
 - WG で成果が得られた場合

■ 参加動機と成果

2007年 CMMI L5 情報収集
2011年 CMMI L5 達成

No	SPI Japan	発表者数
1	SPI Japan 2007	-
2	SPI Japan 2008	2
3	SPI Japan 2009	5
4	SPI Japan 2010	4
5	SPI Japan 2011	4
6	SPI Japan 2012	4
7	SPI Japan 2013	3
8	SPI Japan 2014	5
9	SPI Japan 2015	3
10	SPI Japan 2016	4
11	SPI Japan 2017	6
12	SPI Japan 2018	2
13	SPI Japan 2019	4
14	SPI Japan 2020	-
15	SPI Japan 2021	3
16	SPI Japan 2022	4
17	SPI Japan 2023	2
18	SPI Japan 2024	3
19	SPI Japan 2025	3
	合計	61

背景と狙い

- WG活動
 - 問題抽出 → 施策検討 → 施策実施 → 成果確認
 - 6～8名、週2時間程度の活動
 - 施策実施に多くの工数
 - 目標を見失うことが多い（改善活動 → 作業）

発表により、
全体のストーリーを俯瞰し、
ロジカルに話せる能力を獲得

スケジュール

月	活動
10月	SPI Japan 参加
3月	定例会議の中で 10～20分程度、 発表内容のストーリーを検討。
4月	ストーリーを書き出し始める
5月	本格的に執筆。レビューは 1～2時間/週のペース
8～9月	プレゼン資料作成。レビューは 2時間/週のペース
10月	SPI Japan 参加

投入工数

- 投稿資料
 - 対面で 10時間／人
 - 図表、日本語指導
- プレゼン資料
 - 対面で 6時間／人
- 指導者の負担は小さくない (16H x 2~4名)
- 発表テーマに合わせた仕事の割り振り

成果

- 成果

- 発表者の改善活動の“視点”が上がる
- 投稿資料、プレゼン資料の作成スキル向上
- 18年間の継続で文化として定着

- 課題

- 毎年発表しているため、成果が十分得られる前に発表
 - ※ 受賞 4名（岩城、松田、岡本、中村）

2. SJで得た知識の活用1

いいソフトウェアを創るための組織と経営

基調講演

倉貫 義人 氏（株式会社ソニックガーデン 代表取締役社長）



「納品のない受託開発」という月額定額&成果契約で顧問プログラムを提供する株式会社ソニックガーデンの創業者で代表取締役社長。アジャイル開発のエヴァンジェリスト。1974年生まれ。京都府出身。大手SIerにてプログラマやマネージャとして経験を積んだのち、2011年に自ら立ち上げた社内ベンチャーのマネジメント・バイ・アウトを行い、株式会社ソニックガーデンを設立。「納品のない受託開発」という斬新なビジネスモデルは、船井財団「グレートカンパニーアワード」にてユニークビジネスモデル賞を受賞。会社経営においても、全社員リモートワーク、本社オフィスの撤廃、管理のない会社経営などさまざまな先進的な取り組みを実践。2018年には「働きがいのある会社ランキング」に初参加5位入賞と、「第3回ホワイト企業アワード」イクボス部門受賞。著書に『人が増えても速くならない』『ザッソウ 結果を出すチームの習慣』『管理ゼロで成果はあがる』『「納品」をなくせばうまくいく』がある。

ブログ <https://kuranuki.sonicgarden.jp/>

SPI Japan 2024 HP より引用

感想とその後

- 感想
 - 管理職なしの良い会社
- その後
 - 書籍『私はロボットではありません』読了
 - 第2章 仕事と作業の違い
 - “仕事” と “作業” が私にとってのキーワード



「嫌な未来なら、変えればいい」

今年目の
読書をおすすめ
書籍

仕事と作業（倉貫 義人氏）

- 仕事

- その結果によって誰かに**価値**を届けるための活動
- 「仕事」は価値を届ける相手がいて初めて成立

- 作業

- 事前に定められた手続きとゴールに向けて行う活動
- 「仕事」を実現するために「作業」が必要。逆はない

<https://kuranuki.sonicgarden.jp/archives/17567> より要約

[参考] 仕事の楽しさ（倉貫 義人氏）

- 自分だからこそ出来る仕事は楽しい
- 成長を実感できれば仕事は楽しい
- 工夫と挑戦があれば仕事は楽しい
- 正解がないからこそ仕事は楽しい

<https://kuranuki.sonicgarden.jp/archives/17604> より

同じ研修を受けて成長速度がなぜ違う？

- 根本的な要因は、“仕事” vs. “作業”
- 仕事している人
 - “もっとよくするには” を考えている
- 作業している人
 - 作業が終わればよい
 - 指示された作業をきっちりやっている

3人の石切りエ（ドラッカー）

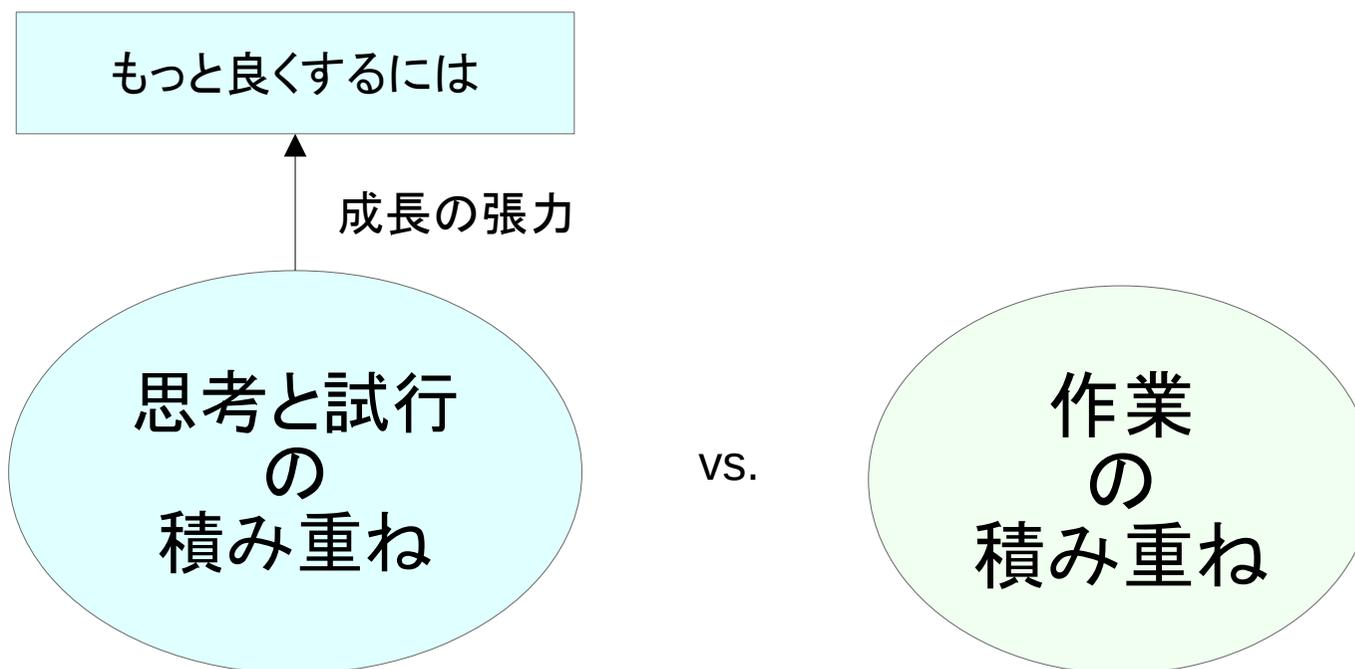
- 道行く人が石切職人たちに「何をしているのか」
- 第一の男
 - 「これで暮らしを立てているのさ」
- 第二の男
 - 槌で打つ手を休めず
「国中で一番上手な石切りの仕事をしているのさ」
- 第三の男
 - その目を輝かせ夢見心地で空を見あげながら
「大寺院をつくっているのさ」

分析結果

	仕事している人	作業している人
活動のゴール	目標施策関連図を常に意識	聞いているけど作業とリンクしない
設計	完了基準：利用者が満足するか もっとよい方法はないか	完了基準：指摘の修正
コーディング	欠陥、CPU, Memory 使用効率、保守性、再利用性、・・・ もっと良くできないか	テストが通れば OK コピーした無駄なコードに無関心
読書	月1冊以上 よい提案には幅広い知識が必要	作業できれば不要
知識獲得	常に "なぜ?" を考える 因果関係を分析してモデル化	言葉を記憶 (ex) バグがある → テスト不足
知識	メンタルモデルに統合され、 適切な提案ができる	バラバラで活用されない知識 知識と作業は無関係
脳内メモリ	2週間程度先までロード 最終ゴールまでの道筋は常に意識	昨日と今日の作業のみ
準備作業	チーム全体の作業がスムーズに 進むよう裏で作業	なし
成長	毎月進化	作業に必要なスキル獲得後、停滞

得られた知見

- 成長する人、成長しない人の差



指導のポイント：仕事する人になれ

※ 一所懸命作業している人は“仕事”の視点がない

3. SJで得た知識の活用2

組織に自動テストを書く文化を根付かせる戦略（2024版）

自動テストはシステム開発のアジリティを高めるために決定的に重要な技術ですが、自動テストを「書く」ことをしてこなかった組織に対して、テストを書く文化を根付かせるのは、一朝一夕では成し遂げられません。本講演では、組織にテストを書く文化を根付かせるための試みとして、まずテストを書く意義について改めてまとめた上で、価値と原則を踏まえた戦略についてお伝えいたします。

和田 卓人 氏（プログラマ、テスト駆動開発者）

学生時代にソフトウェア工学を学び、オブジェクト指向分析/設計に傾倒。執筆活動や講演、ハンズオンイベントなどを通じてテスト駆動開発を広めようと努力している。『プログラマが知るべき97のこと』(オライリージャパン、2010)監修。『SQLアンチパターン』(オライリージャパン、2013)監訳。『テスト駆動開発』(オーム社、2017)翻訳。『事業をエンジニアリングする技術者たち』(ラムダノート、2022) 編者。テストライブラリpower-assert-js作者。X(Twitter):@t_wada

GitHub:@twada

招待講演



SPI Japan 2024 HP より引用

プレゼン資料より

4つのキーメトリクス: 2023年の調査 (3万6千件以上の回答をクラスター分析)

2023

	エリート	ハイパフォーマー	ミディアム パフォーマー	ローパフォーマー
リードタイム	1日未満	1日から1週間	1週間から1ヵ月	1週間から1ヵ月
デプロイ頻度	オンデマンド (1日複数回)	1日1回から週1回	週1回から月1回	週1回から月1回
MTTR	1時間未満	1日未満	1日から1週間	1ヶ月から半年
変更失敗率	5%	10%	15%	64%
構成比	18%	31%	33%	17%

▲ isdoc

▲ 基幹システム

我々の基幹システムは遅れている

その後の活動と成果

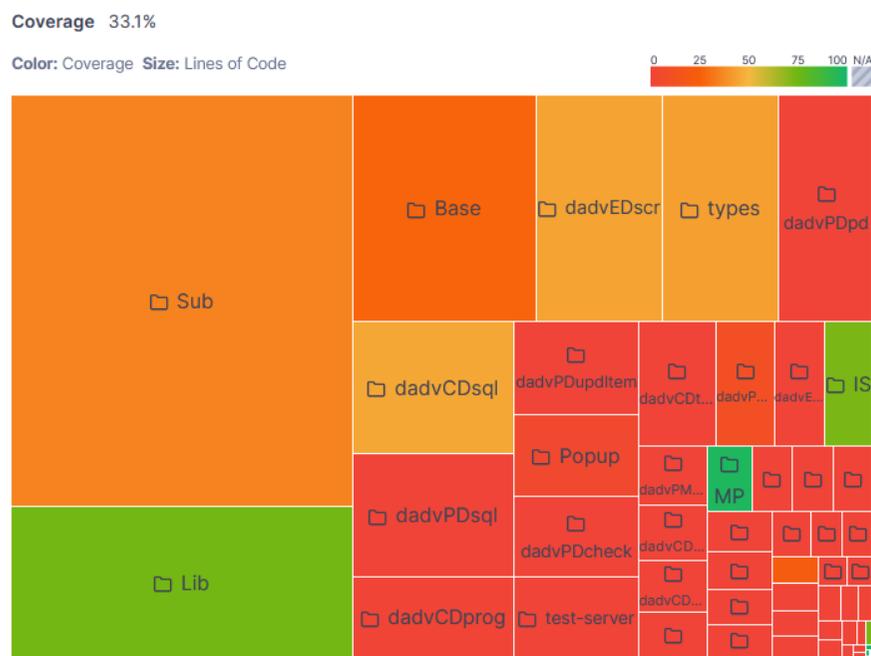
- その後
 - 書籍『LeanとDevOpsの科学』 読了
- 成果
 - 自動テストによるデグレ防止
 - カバレッジの見える化（自動テスト品質向上）
 - Webシステムの 24時間いつでもリリース実現
 - 文書管理ツール isdoc(exe) はいつでもリリース実施済み



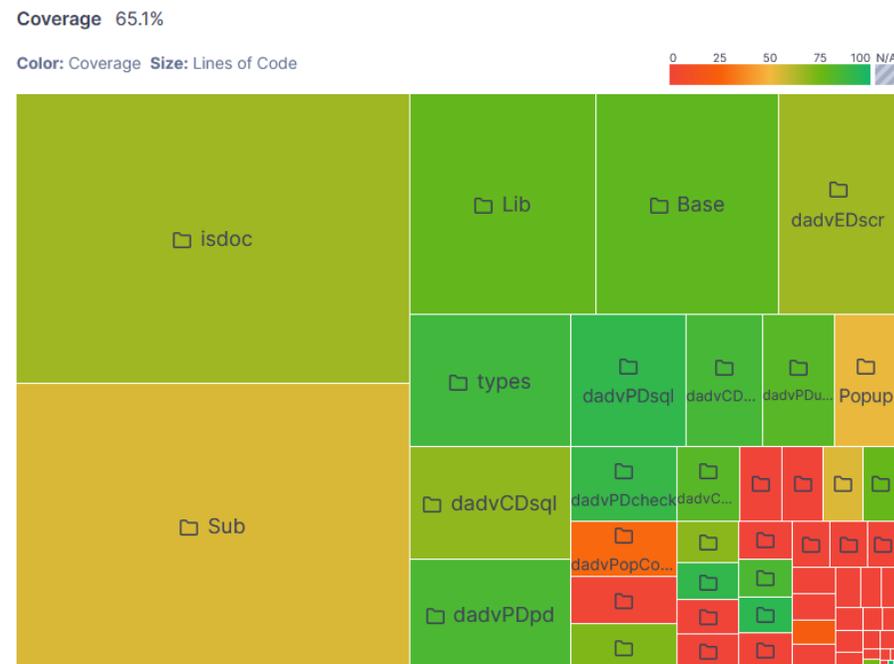
[10/23 3B] デグレ防止の自動テストと即時リリースの取り組み 中村 幸太(株式会社パラミックス)

成果1：自動テストの定着化

- 目標（60%以上）を設定
- テスト・ファーストの実践を推進
- GitLab Pipeline の運用が定着



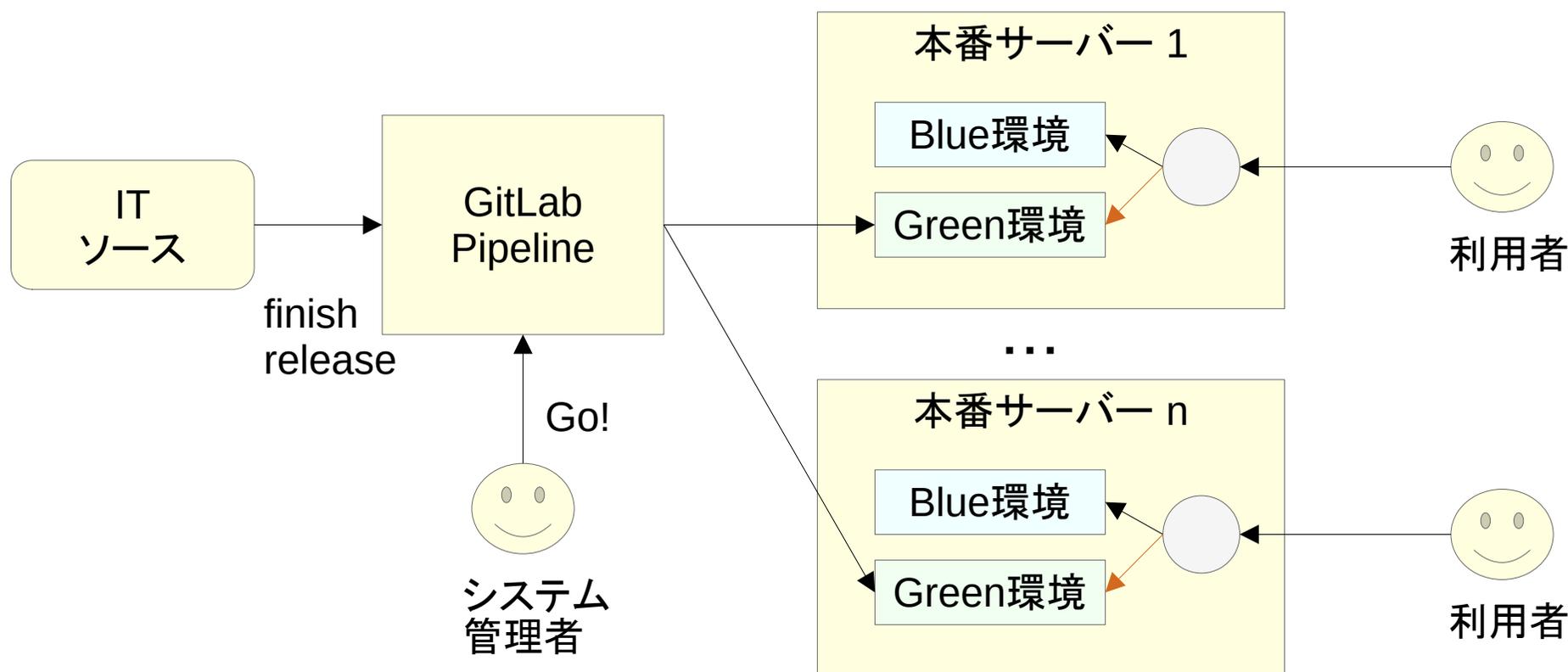
2025.3



2025.6

成果2: 24時間いつでもリリース

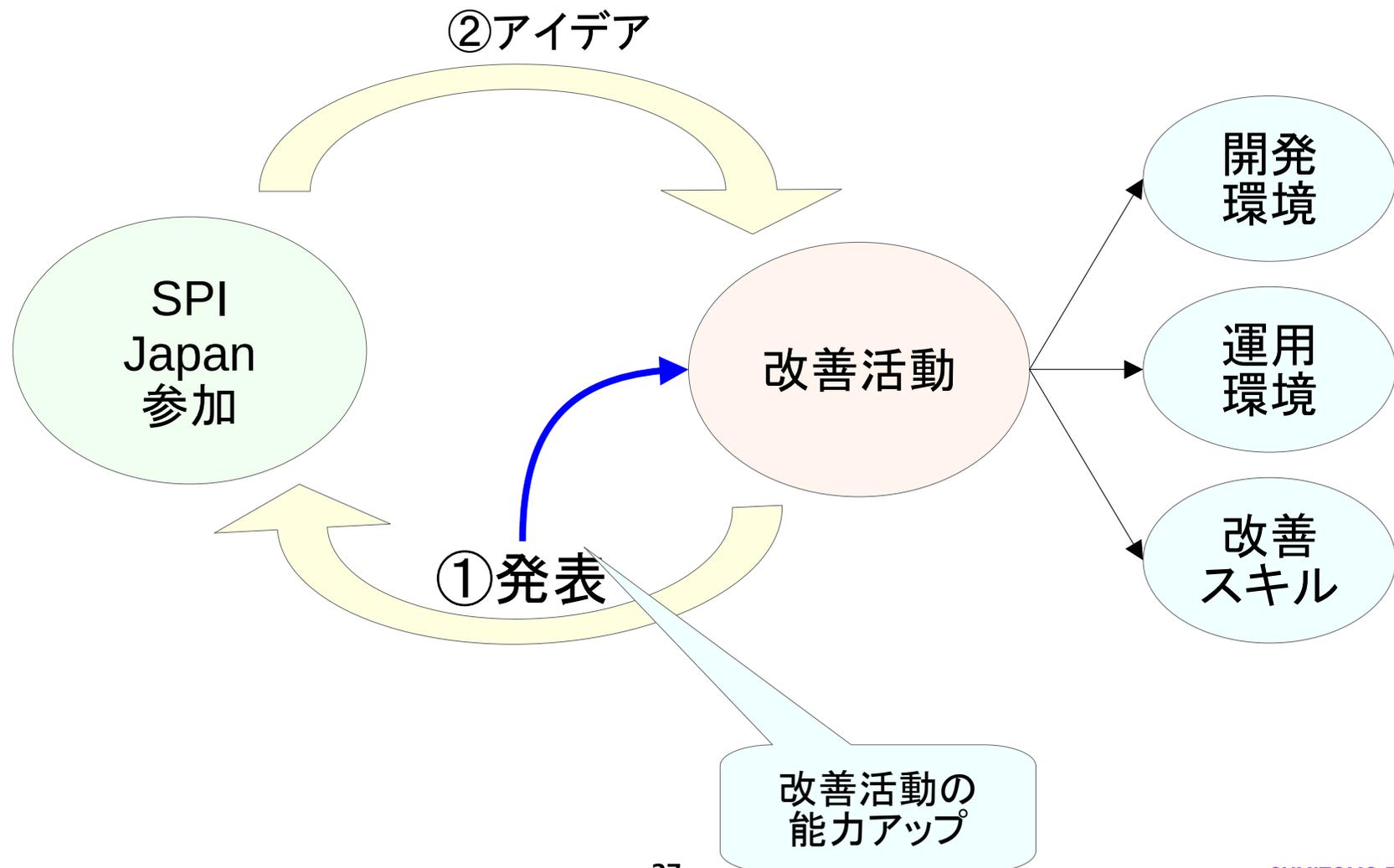
- Blue Green Deployment の導入 (2025.6)
- スプリント最終日の昼間にリリース (1回/2週間)



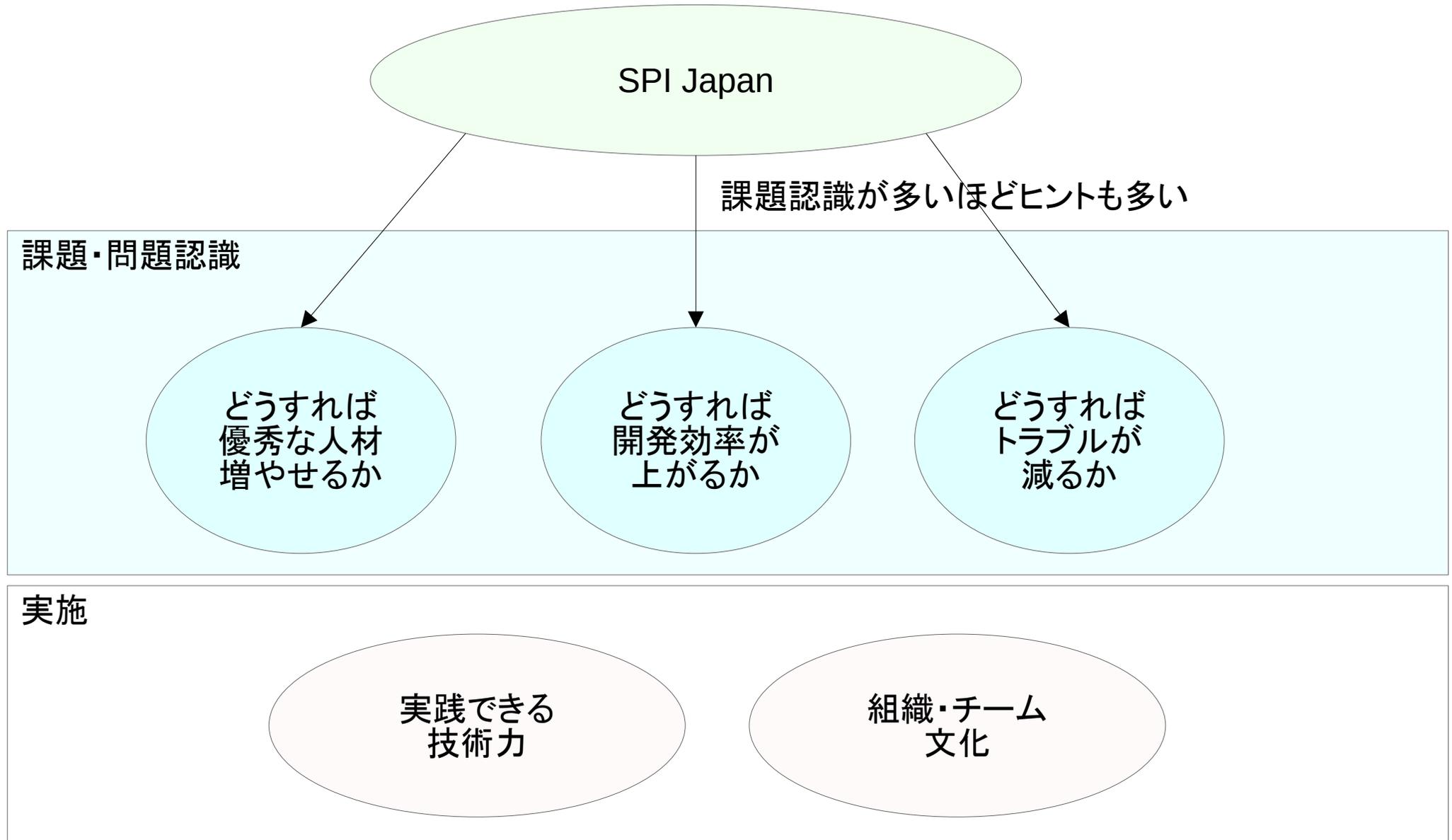
4. まとめ

SPI Japan の2つの活用方法

- 発表と聴講で効果の2重取り



活用のポイント



The END